

嬉泉の新聞

- ・嬉泉の新聞／第42号／1999年(平成11年)10月発行(年3回発行)
- ・発行所＝社会福祉法人嬉泉
東京都世田谷区船橋1-30-9(〒156-0055) TEL 03-3426-2323
ホームページアドレス <http://www2s.biglobe.ne.jp/~kisen/>
メールアドレス kisen@mxg.mesh.ne.jp
- ・発行人＝石井哲夫 ・編集人＝五十嵐猛

自閉症児・者対策の動き

社団法人 日本自閉症協会 常務理事 杉浦宏章

去る7月25日に東京において開催された「日本自閉症協会第16回全国大会」において、厚生省の仁木障害福祉課長のご挨拶をいただいたが、その中に自閉症関係者に注目されるお話があった。その部分をご披露し、関係者として解釈や考えを述べてみたい。

『厚生省におきましては、「今後の障害保健福祉施策の在り方」全般につきまして、関係の審議会で、平成8年の秋から2年余にわたって、ご審議をいただいておりますが、今年の1月に、意見具申として、その審議の成果をお取りまとめいただいたところであります。その中で、自閉症につきましては、「今後更に、心理的、社会的な処遇方法の開発など施策の充実を図る必要がある」とされているところであります。

これまで、自閉症に対する福祉施策は、知的障害を併せ持っているケースが多いことから、知的障害者の施策体系、サービス体系の中で取り組まれてきております。

しかし、今、知的障害者施策の枠の中のサービスだけで、十分であるかが問われているだろうと思います。また、知的障害者向けのサービス体系を利用するにしても、自閉症という一つの個性に着目した、サービスの提供の仕方が求められるのだらうと思います。

※ ①その前提として、福祉関係者、教育関係者、医療関係者等が、自閉症の特徴や適切

な対応の仕方について、正しい理解を持っていただくことが何よりも重要であろうと思います。その点において、まだ十分とは言えない現状にあると思います。

日本自閉症協会で実施されておられる「実践療育セミナー」は、そのための事業であると思いますが、私どもも、当該事業の充実に向けて支援させていただきたいと考えているところでございます。

また、関係審議会の意見具申でも提言されている※ ②「適切な処遇方法の開発」については、具体的に言えば、援助システムや指導プログラムの開発にも、公的な研究費を、積極的に活用していきたいと考えているところであります。

一方で、※ ③自閉症対策を、知的障害者の準用ではなく、独立した固有の施策体系として確立すべきであるという、ご意見があることも承知しておりますが、これにつきましては、自閉症というものの判定基準の確立の度合いとも関連してくる事柄であろうと考えております。』

以上が課長のご挨拶の一部分であるが、傍線の部分について触れてみたい。

※ ①当協会は、平成10年度から3ヵ年計画で厚生省及び文部省の推奨事業として、社会福祉・医療事業団の助成を受けて「正しい自閉症の理解を」をテーマとし、新任職員を

対象に全国2ヶ所(定員600名)でセミナーを実施している。

このセミナーに毎回定員を超える受講希望者があることは、自閉症児・者に係わる関係者の日頃現場においてのご苦労と関心のあることが考えられる。自閉症児・者は言葉の理解が乏しく、しばしば異常行動が激しいため療育指導の困難さを伴っており、そのうえ、適切な治療方法はなく、施設・学校などの職員による療育指導が困難をきわめている状況が理解され、推奨事業となっている。このような現状に、長い間開催されている(社福)嬉泉と当協会共催のセミナーとの役割分担、また内容の充実策と継続について検討しなければならないと考えている。

※②10年度から3ヵ年計画で厚生科学研究費による「自閉症児・者の不適応行動の評価と療育指導に関する研究・総括(主任研究者・江草安彦当協会会長、分担研究者・石井哲夫当協会副会長、太田昌孝当協会理事、山崎晃資当協会理事)」が行われているほかに、厚生省推奨研究として社会福祉法人恩賜財団母子愛育会より、委託研究「自閉症などの発達障害への援助システムと指導プログラムの開発研究(研究代表者・永井洋子当協会専任相談員)」が、今年度より3ヵ年計画で行われることとなった。

「諸外国で行っている『自閉症施策・対策』を調査し、我が国の文化や実情などにあった

援助システムや指導プログラムを研究する」という計画で、この8月にアメリカのノースカロライナ大学医学部に属するTEACCH部のメジホフ教授とスタッフを日本に招聘し、トレーニングセミナーなどを開催してその研鑽に努めたが、その他の援助システムとして英国自閉症児協会の療育システム、あるいは米国イエール大学医学部と関連する治療プログラム、また、欧州での援助システム等を学びつつ、日本で開発された認知発達の観点からの指導プログラムの応用化などを含めて、研究ができるようになったことに対し、大きな期待が寄せられている。

※③制度として、自閉症児施設はあるが、成人施設は必要ないのか、また、現状の知的障害者対策の中での援助サービスでよいのか、これらは大きな課題であり、独立した固有の施設体系の確立や、自閉症という一つの個性に着目したサービスの提供のために、関係者は何をしなければならないのか、待ったなしの課題である。

一方、関連する厚生科学研究費の分担研究「自閉症の判定基準の洗練化とフィールド調査(分担研究者・太田昌孝先生)」は着々と進められ、その結果が待ち望まれている。

厚生省がこれらの基本的な課題を取り上げ、推進するようになったのは、先人の方々を含む自閉症関係者の長い間の努力が開花し始めたと考えられるのではないだろうか。

会のしくみと

「入会のおさそい

「日本自閉症協会」の会員に入会しませんか。

◎会員

「正会員」と「賛助会員」があります。

●正会員……当会の目的に賛同して入会した個人又は団体。総会に出席するなど、法人の運営に参加していただきます。

●賛助会員……当会の事業を賛助するため入会した個人又は団体。法人の運営には参加せず事業を支援していただきます。

◎会費

「正会員」(個人)

入会金3千円、年会費4千円

「賛助会員」(個人)

入会金なし、年会費3千円

◎特典

「入会された方全員に、協会ニュース「いとしご」(隔月)、「心を開く」(研究誌・年1回)を発行し、最新の知識と情報をお届けします。また、電話・面接相談や療育キャンプ、研修会等に優先的に参加することができます。

◎お問い合わせ先

社団法人 日本自閉症協会事務局
住所 新宿区西早稲田2-2-8
電話 03-3323-2164

社会福祉援助における利用者論が展開されるようになってきた。このことは大変結構なことであって、今まであまり議論せず、援助者中心の福祉が展開されてきたように思っている。最近、利用者本人や家族参加のケアプランの必要性が言われているが、本人参加の意義は認めるにしても、家族参加については、無条件でそれを認めてよいものか悩むことが多い。かつて行政に対して、サービス機関として、利用者の家族の希望を聞いた上で、あまりにも掛け違った人については、一定期間を経た後に転園を進めるといふ、施設側の裁量権がないのかを聞いたところ、「ない」という返事だった。このことについてはサービス機関の存立をかけて争う気持ちを未だに持っている。利用者の家族の誤解と邪推を解くことも、「パートナーリズム」(父権的な)処遇ときめつけてパートナーシップを標榜する時代には家族に従うということとは、とんでもないことで、大変困る事実があると言ふことを是非知って欲しいのである。

私は、未だに利用者の最善の利益を考えることについて、家族は、親も含めて、援助者としては対等になりたいと思ひ続け、その意味

でのパートナーシップについては何等異論もない。

今、子どもを育てている親たちの話を聞いて、子どもへの対し方を母親に対して手ほどきをする等というおこがましい気持ちがあるわけではないが、ただひたすらこの子と母親の関係が好転するような援助の仕方を、分ってもらおうと念じて、親に向かって仕事をしている援助者が激増している事実があることを指摘しておきたい。

たとえば、家庭の夫婦関係を第三者が正しく理解するなどと言う

してのプライドをかけて、家族に對しても、その信頼を得て、利用者にとって利益になるようにと、手当たり次第話し込んできたような気がするが、このごろは、家族の無遠慮な求めに対して、自信を持ってこれを援助することが出来るようになってきている。本当に私の応答や助言が、利用者のために何の役に立つかと考えると、はなはだ自信がない。このような現実が見えている家族ぐるみの援助活動において、援助者の臨牀的な実践の厳しさを知ってもらうことは

社会福祉援助論

(強力な親子ぐるみの援助)

(その五) 石井哲夫

ことは、きわめて難しいことであるにもかかわらず、子どもの利益など考えずに、ひたすら自分の感情のままに夫の事を話している母親の言い分を聞いて、子どものためにになるならばと思つて、それを本人に代わって整理したり気づかせたりするような対応は、如何に場数を踏んできたとは言え、一回一回にもの凄くエネルギーが必要なのである。こうして、専門家と

期待できることではない。真面目に援助をし続けていく援助者側の信念や使命感を、家族にも行政にも通じないとすれば、誰が評価してくれるのであろうか。ましてや、最近の嘴の黄色い援助学者が、人生の機微をほとんど解さずして、ケアプランなどと称してアセスメントを行い、何の援助をしようとするのか疑問なのである。このような現場の苦勞を見捨てないでく

れと言いたいのである。

さりとて家族に対しては、何も期待できないと言ふのではない。我々の利用者援助によりよい家族からの協力を得るための家族との連携が必要になることが多いのである。今まで社会福祉施設だけの援助の仕事をしていると、子どもを施設に預かって、全面的に援助していることで、やっと親と対等な援助関係が成り立っていたのであるが、これが在宅援助や通所施設においては、どうしても対等になりにくいことを感じる。子どもを守るために必要に応じて入所させる機会を作つて、親子の関係を調整しなければならぬ必要性もある。ただこれは一般的ではない。私には、これからもう一勝負の人生が始まるのであろうか。特に障害児者に関わる援助者の専門性の低さから、わが子の気持ちが無処を向いているのかをわきまえない親に対して、その気づきを求める必要性が顕在していない。これからは、強力な親子ぐるみの援助活動の臨牀的実践を示していきたい。

今まで、沢山切り捨てご免の書き方をしたが、今回もこう言い切るとまた反発もされるであろう。

平成10年度 事業報告

(自) 平成9年4月1日
(至) 平成10年3月31日

1. 法人の概要

主たる事務所の所在地 東京都世田谷区船橋 1-30-9 法人認可年月日 昭和41年10月1日	電話番号 03-3426-2323 代表者氏名 須藤 祐司 法人認可番号 厚生省収児第516号 設立登記年月日 昭和41年10月28日
---	--

2. 法人の行う事業

事業の種類	施設の種類	名 称	施設長氏名	定員
社会福祉事業	第一種社会福祉事業	第二種自閉症児童施設 知的障害者更生施設 知的障害者授産施設 (通所)	山根 幸江子 奥村 多親子 小友田 篤 友田 篤	60名 30名 44名 40名 50名
公益事業	第二種社会福祉事業	家庭児童相談事業 知的障害者地域生活援助事業	石井 哲夫	4名
収益事業	建物等賃貸事業	知的障害者生活療育 心身障害者緊急保護事業	友田 篤	6名 2名

3. 役員等の状況

役 職	名	前 職
理事長	須藤 祐司	(特医) 社団法人徳泉会 理事長
常務理事	石井 哲夫	白梅学園短期大学 学長
理事	仲村 優一	(学) 大東源徳学園 学術顧問
理事	須藤 祐正	(特医) 社団法人徳泉会 春日部徳泉病院 院長
理事	町田 英一	(福) 東京都社会福祉協議会 参与
理事	奥村 幸子	(福) 徳泉 子どもの生活研究所 園長
理事	山根 幸江子	(福) 徳泉 子どもの生活研究所 園長
監事	平井 信義	大妻女子大学 名誉教授
監事	茂呂 政利	茂呂会計事務所 所長 (税理士)
評議員	小林 大作	横浜国立大学 名誉教授
評議員	小谷 芳正	不動産鑑定士
評議員	板山 寛治	(財) 日本障害者リハビリテーション協会 副会長
評議員	山崎 寛	東海大学 教授
評議員	小松 雄二	(学) 白梅学園 理事長
評議員	小沼 康天	(福) 武蔵野会 理事長
評議員	中島 健一	(福) 世田谷区社会福祉協議会 事務局長
評議員	北澤 清司	日本社会事業大学 助教授
評議員		東海大学健康科学部社会福祉学科主任教授

※理事は全員評議員を兼ねる。

4. 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会

回	開催年月日	議事内容
第1回	平成10年4月13日	①短期入所事業の開始について ②定款の一部変更について ③給与規定の一部改正について ④経理規定の一部改正について ⑤千葉県監査指摘事項の改訂状況報告について ⑥東京都指導検査指摘事項の改訂状況報告について ⑦収益事業「嬉泉不動産運用部」の名称の変更について ⑧子どもたちの生活研究所新築工事請負業者の決定について
第2回	平成10年5月27日	①定款の一部変更について ②グループホーム「春のひかり」の施設設備について
第3回	平成10年6月29日	①平成10年度補正予算について ②定款細則の制定について ③就業規則細則（子研・めばえ）の一部変更について ④平成10年度補正予算（第2次補正） ⑤平成11年度事業計画について ⑥平成11年度予算について ⑦定款の一部変更について ⑧諸規定の一部変更について 他
第4回	平成10年9月9日	①定款の一部変更について ②グループホーム「春のひかり」の施設設備について
第5回	平成10年12月19日	①平成10年度補正予算について ②定款細則の制定について ③就業規則細則（子研・めばえ）の一部変更について ④平成10年度補正予算（第2次補正） ⑤平成11年度事業計画について ⑥平成11年度予算について ⑦定款の一部変更について ⑧諸規定の一部変更について 他
第6回	平成11年3月17日	①定款の一部変更について ②グループホーム「春のひかり」の施設設備について

(2) 評議員会

回	開催年月日	議事内容
第1回	平成10年4月13日	①短期入所事業の開始について ②定款の一部変更について ③給与規定の一部改正について ④経理規定の一部改正について ⑤千葉県監査指摘事項の改訂状況報告について ⑥東京都指導検査指摘事項の改訂状況報告について ⑦収益事業「嬉泉不動産運用部」の名称の変更について ⑧子どもたちの生活研究所新築工事請負業者の決定について
第2回	平成10年5月11日	①定款の一部変更について ②グループホーム「春のひかり」の施設設備について
第3回	平成10年6月24日	①平成10年度補正予算について ②定款細則の制定について ③就業規則細則（子研・めばえ）の一部変更について ④平成10年度補正予算（第2次補正） ⑤平成11年度事業計画について ⑥平成11年度予算について ⑦定款の一部変更について ⑧諸規定の一部変更について 他
第4回	平成10年9月9日	①定款の一部変更について ②グループホーム「春のひかり」の施設設備について
第5回	平成10年12月19日	①平成10年度補正予算について ②定款細則の制定について ③就業規則細則（子研・めばえ）の一部変更について ④平成10年度補正予算（第2次補正） ⑤平成11年度事業計画について ⑥平成11年度予算について ⑦定款の一部変更について ⑧諸規定の一部変更について 他
第6回	平成11年3月17日	①定款の一部変更について ②グループホーム「春のひかり」の施設設備について

総括貸借対照表

平成11年 3月31日 現在

法人名	科目	合計	本部	子どもの生活研究所 めばえ学園	袖ヶ浦 のびろ学園	袖ヶ浦 ひかりの学園	赤塚福祉園 (授産)	赤塚福祉園 (更生)	子どもの 生活研究所	グループホーム 春のひかり	赤塚ホーム	(単位：円)
	資産の部											運用財産 活用事業
	1. 流動資産	694,921,271	565,305,283	3,159,001	40,427,867	38,206,599	11,127,837	22,892,609	5,348,888	1,193,510	7,259,677	
	現金	263,791	36,372	25,679	48,617	42,888	18,601	17,673	44,570		29,391	
	預金	214,958,071	107,723,444	2,949,411	26,458,435	33,088,215	10,798,747	22,799,382	3,735,005	329,634	7,075,798	
	有価証券											
	立仮払金											
	立仮払費用											
	前払費用	2,563,300	2,563,300									
	前払金	3,713,167	3,713,167									
	貸付金	472,685,942	450,784,000									
	未収金			183,911	13,920,815	4,911,496	310,489	75,554	1,569,313	775,876	154,488	
	その他の流動資産	737,000	485,000			164,000				88,000		
	2. 固定資産	3,009,537,186	2,916,658,810	3,138,680	35,952,366	35,190,603	5,000,000	8,700,000	2,474,415	2,422,312	7,259,677	
	建物	1,408,913,187	1,408,913,187									
	固定資産物品	187,497,343	113,318,967	3,138,680	35,952,366	30,190,603			2,474,415	2,422,312		
	土地	647,335,375	647,335,375									
	建設仮勘定	657,390,375	657,390,375									
	権利											
	投資有価証券	6,398,962	6,398,962									
	その他の固定資産	102,001,944	83,301,944			5,000,000	5,000,000	8,700,000				
	資産合計	3,704,458,457	3,481,964,093	6,297,681	76,380,233	73,397,202	16,127,837	31,592,609	7,823,303	3,615,822	7,259,677	
	負債の部											
	1. 流動負債	558,073,538	500,597,799	3,155,045	18,770,810	16,062,580	2,400,579	10,279,969	4,755,495	723,907	1,327,354	
	経常資金借入金											
	未払金	542,804,022	499,287,884	1,182,679	15,291,388	12,822,528	1,973,818	8,978,045	1,517,172	723,907	1,026,601	
	未払費用											
	前受金	11,556,349	1,309,915	857,298	3,479,422	3,240,052	426,761	1,301,924	640,224		300,753	
	前受収益											
	本部会計借入金	3,713,167		1,115,068					2,598,099			
	その他の流動負債											
	2. 固定負債	184,880,000	184,880,000									
	設備資金借入金	184,880,000	184,880,000									
	3. 引当金	80,997,750	62,297,750			5,000,000		5,000,000	5,000,000			
	退職給付引当金	62,297,750	62,297,750									
	人件費引当金	5,000,000										
	修繕引当金	11,200,000				2,500,000	5,000,000	5,000,000	3,700,000			
	備品等引当金	2,500,000				2,500,000						
	負債合計	823,951,288	747,775,549	3,155,045	18,770,810	21,062,580	7,400,579	18,979,969	4,755,495	723,907	1,327,354	

科目	合計	本部	子どもの生涯研究所 めばえ学園	袖ヶ浦 ひかりの学園	赤塚福祉園 (授産)	赤塚福祉園 (更生)	子どもの 生活研究所	ケル・ワ・まー 春のひかり	法人名 赤塚ホーム	(単位:円) 運用財産 活用事業
収入の部	31,379,140	223,749,280	59,443,640	221,490,924	168,767,477	270,735,200	31,379,140	851,850	43,667,000	
事業収入	449,702,041		19,822,228	153,179,173	145,394,312		18,996,085			
補助金収入	950,908,328									
利用金収入	84,072,564	81,436,743	1,850,000	525,912	181,530	78,379	1,901,901		1,426,286	3,000,000
寄付金収入	23,442,833	11,486,000	10,054,932		4,811,329	1,848,475	689,746	505,488		
貸付金収入	1,848,475	23,804,781	610,243	4,683,416		310,227				
収入の部	40,952,467					1,110,951				
当座預金収入	234,500,000	234,500,000								
積立金収入	152,011,000	152,011,000								
収入合計	1,908,816,848	726,987,804	91,781,043	379,879,425	319,154,648	76,671,902	52,966,872	1,357,338	45,095,286	3,000,000
支出の部	1,061,974,459	26,076,770	87,151,306	319,822,906	277,160,741	62,466,098	49,700,270	6,700,602	44,114,849	
事業支出	1,89,698,570		4,629,737	60,458,604	43,984,466	8,827,983	3,266,602	242,393		
補助金支出	1,848,475					1,848,475				
利用金支出	35,451,208	35,451,208		4,000,000	3,800,000				686,000	3,000,000
寄付金支出	23,442,833	11,956,833								
貸付金支出	8,674,905	8,674,905								
当座預金支出	656,043,650	656,043,650								
積立金支出	5,000,000					5,000,000				
支出合計	1,982,136,100	738,205,366	91,781,043	384,281,510	324,943,207	73,142,556	52,966,872	6,942,995	44,800,849	3,000,000
当期繰越金	△13,319,252	△11,217,562	△4,402,085	△5,790,559	3,520,346	262,069,702	△5,585,657	292,437		
支出合計	1,908,816,848	726,987,804	91,781,043	379,879,425	319,154,648	76,671,902	52,966,872	1,357,338	45,095,286	3,000,000

職 員 の 思 い

佐瀬美穂

赤塚福祉園の授産施設に勤務して、7年目を迎えました。新人の頃には「嬉泉らしい授産とは何か」と度々言われ、頭を悩ませた覚えがあります。

雇用企業の倒産やリストラが深刻化している現在、厚生省は全国のどの通所施設でも定員の10%を上限に、失職した障害者を受け入れることを認めるという通達を出しました。これに加えて板橋区では数年後には、区内福祉園の定員が一杯となる為、養護学校新卒者の受け入れ先確保として、今後、授産施設の分園を具体的に検討し、準備を進めているという話を聞いています。

そんな周囲の状況をよそに、授産には年齢も経歴も家庭環境もバラエティーに富んだ利用者の方達が、それぞれの思いを胸に通ってきています。仕事が好きて働きたい人、より充実した生活を望んでいる人、家族を亡くして自立を目指している人、理想像を前に空回りしている人、病気に對する不

安を抱えながら頑張っている人、赤塚が好きでとにかく通うことが生活の一部となっている人、友達に会いたい人等々。中には対人関係が苦手だったり、福祉施設に在籍していることに不満を感じていたり、外にいる方が楽しかったりして、欠席の多い方もいます。

こういった利用者の方達からどのようにニーズを引き出し、サービスを提供していけば良いのか、どのような援助をすればより充実した生活が送れるのか。彼らを前にして、自分の無力さ加減が嫌になったこともあります。しかし、所詮一人の力には限界があり、そんな万能感におごっている場合でもなく、やはり出来ることを少しずつ積み重ねていくことが大事なのだと思います。長いこと同じ職場で働いていると、沢山の大事なことが見えなくなる時があります。そんな時、自分が新人の頃に書いていたメモ等を見ると、そこには些細なことでも真正面から突進して玉砕している自分がおり、滑稽でもその一つ一つが身になってきたのだと感じることが出来ます。これからは、今まで感じてはいても出来なかったことを、形にする努力をしたいと思います。嬉泉の中でもより地域に根ざすことの出

来る施設として、利用者が働く、遊ぶ、生活することに生きがいを見出せるように、施設ぐるみで取り組みんでいきたいです。

(赤塚福祉園)

森本智宣

「自閉症って一体何だろう」、大学時代に始めて自閉症と呼ばれた子どもに会ってそう感じた。それ以来、その疑問をずっと追いつけていくような気がする。大学時代は養護学校に通う自閉症児のレスピットサービスのアルバイトをし、秩父学園では自閉症施設と呼ばれる施設に好んで実習に行った。そして嬉泉で働き始めて1年余り。自分の気持ちの中にはいつもその疑問がある。学術的とはいわゆる障害分類表であるICD-10やDSM-IVで自閉症の定義が成されているいたり、医学的には脳や遺伝子の研究が進み、自閉症の原因究明が続けられている。

TEACCHプログラムでは体系的に自閉症の特徴と療育法について事細かに呈示されている。けれどもそのような事を知っていたとしても、自分が実際に会う子ども、利用者の前では、何を考えているのか、どう接すれば良いのかと戸惑う毎日である。だから自分の中ではいつでも、その疑問は解決しないままである。それは自閉症だけに限ったことではない。現在、私はおおらか学園で指導員として働いている。そこにはいろんな利用者の方が通ってくる。その人達に関わるのが仕事なのだが、毎日どうしたら良いのか分からないことが多い。自分なりに推測を立てたり、他の人がやっていることを聞いたり真似てみるのだが、どうにも上手くいかない。キャリアも経験もない自分にとっては、それは当たり前のことであるが、利用者と接している時、関わりを思い返した時、自分の中で悔しさというか、一種の無力感がある。大学時代に感じた疑問は未だもって消えない。それは何年経っても消えないものかなとも感じるが、少しでも目の前にいる利用者のところを感じ取れる自分でありたいと思う。いろんな知識を得て、頭で分かったと理解するのは簡単なことである。しかし実際に、現場でその人たちのところを感覚的に感じ取ること、体で覚えることが今の自分自身の目標であり、必要なことではないかと思う。

(おおらか学園)

嬉泉の出来事

「地域総合防災訓練への参加」

去る8月29日(日)、板橋区下赤塚地区防災訓練が板橋区立下赤塚小学校で行われ、赤塚福祉園は自衛消防訓練(総合訓練)としてこれに参加しました。

この訓練は、板橋区地域防災計画及び東京都総合防災訓練並びに七都府合同防災訓練の趣旨を踏まえて、板橋区をはじめ高島平警察署及び志村消防署並びに下赤塚地区町会・自治会等多くの機関が参加して、毎年8月最後の日曜日に行われているものです。

当日、板橋区下赤塚地区防災訓練自体は、9時から一斉に下赤塚各地区で地震発生訓練会場の下赤塚小学校(一時避難場所)への避難(入場)の訓練というスケジュールで既に進められていて、赤塚福祉園としては登園時間の関係で、利用者受け入れ後の10時35分に地震が発生したという想定で、篠カ谷戸町会の協力による下赤塚小学

校への避難(避難会場での初期消火訓練等)への参加という形で参加しました。

下赤塚小学校に到着してからは体育館へ集合するグループと、予め避難所設営訓練で設営されたテントへ集合するグループに分かれて、グラウンドで行われている訓練(応急救護、初期消火等)の見学をしました。その中で参加可能な利用者及び職員は、実際に訓練に参加することも出来ました。

当日は朝から天候が良く、気温も30℃を超える暑さの中、職員も利用者もいっぱい汗をかきながらも、積極的に訓練に参加していました。

全体的には、町会や消防署員による避難誘導や、実際に消化器で火を消す訓練等、普段の訓練では滅多に経験出来なかった事が経験出来たのは、災害発生時における適切な行動力の向上及び自主防災意識の徹底並びに連帯意識の醸成等を図る上で効果があり、大変有

意義な訓練でした。一方で、期的なことを考えて、団扇や濡れタオルを用意する等の暑さ対策がきちんと出来ていなかったことや、様々な訓練を全員がよく理解し、訓練参加希望者が全員速やかに訓練に参加できるように、もっと事前連絡を密にすべきであった等、反省すべき点もあったので、今後の課題したいと思います。

(赤塚福祉園 松田弘治)

「地域を支えるひかりの玉子」

袖ヶ浦に来てはや1年半、思い描かれた生活はすでに遠い夢のかなただが、それでも僕には新たな夢が……。それは「安全でおいしい玉子」をつくること。

二十何年生きてきて、鶏を飼育した経験はただの一度、夜店で買った鶏で、いつ玉子を生むのかと楽しみに待っていた小学3年生の頃、期待はまんまと裏切れ、恐ろしい大きな雄鶏にはこれが世に言うブロイラーであった。

それから年月が過ぎ、昨年から坂本さんの手ほどきで養鶏作業の担当になり、今年は作業の責任者である。地域の大きな協力で学園の鶏は今日もおいしい玉子を生んでくれる。

まず鶏舎は、伊藤さんのお父様から頂いた材木が屋根を支え、床一面に敷き詰められるもみ殻は近所の渡辺さんのご好意であり、鶏舎運動場の砂は王子製紙さんが雨の中10トンダンプで何回も往復して運んでくれたもの。

餌については、大橋屋蔵波店さんが豆腐の絞り滓を毎週配達してくださり、前述の渡辺さんは、大根の時期になると必ず連絡をくれて畑の大根葉を快く運ばせて下さる。そして、大曾根の清田さんは、自動精米所の米糖を一年中提供してくださる。学園の職員だが、飼持一男さんは、そういった協力者を積極的に紹介してくれて、クズ米や貝殻を調達してくれる。

飼育のノウハウが無かった時には市原の川嶋農場の川嶋秀雄さんや、小田原で笹鶏養鶏を経営している笹村出さんにお世話になった。地域の多くの方々がひかりの学園の養鶏作業を支えてくれている。この場をかりてお礼をひとこと「みな様のあたたい協力で、利用者や地域の方々が安心して食べられる自然卵をつくる事ができています。これからもどうぞよろしくお願いします」。

(ひかりの学園 津金澤寛)

アトリエ・AUTOS 2000年カレンダー

この度、アトリエAUTOSで「2000年ポストカード・カレンダー」を製作いたしました。
これは彼らの素晴らしい作品を多くの方に見ていただき、「自閉症」という障害に対する理解を深めていただくという企画のひとつとして進めてきたものです。

20cm×20cmのサイズのアクリル版にポストカードをはさみ、その月が終わったらカレンダーを切り離し、ポストカードとして使えるようになっています。壁に掛けても、卓上用としても使えます。1セット2000円です。御親戚の方、お知り合いの方などにもお勧めいただけたら幸いです。大切な方への年の瀬のご挨拶や、クリスマスのプレゼントなどにもお使いいただけます。年末までは、いつでもお申し込みを受けさせていただきますが、数に限りがありますので、お早めにお申し込み下さい。



須藤福祉センター所長 石井哲夫

お申し込み先：社会福祉法人 嬉泉 子どもの生活研究所

7156-0055

東京都世田谷区船橋 1-30-9

PHONE 03-3246-2323

★ 光の学園のカレンダーができました。是非、見て買ってください。
(袖ヶ浦光の学園 市川 浩)

